

# 宮崎県都城方言における疑問詞疑問表現の韻律特徴

言語学・応用言語学専門分野

2020（令和2）年入学

渡邊花恋

2024（令和6）年1月提出

## 要旨

本研究の目的は、宮崎県都城方言の韻律特徴に焦点を当て、疑問詞疑問表現の韻律パターンを分析することである。都城方言では、疑問詞疑問文において疑問詞以降にアクセントが消去されることが分かっている(福田 2023)。しかし、疑問詞が従属節にあるときのアクセント消去の法則は、他方言では指摘があるものの(早田 1985、久保 1989)、都城方言では明らかになっていない。本研究で明らかにしたことは以下の通りである。

まず、都城方言では、疑問詞以降のアクセントの消去が、従属節末まで続く場合と、主節末まで続く場合の 2 パターンあることを述べる。ここで、従属節の従属度(南 1974 による)はアクセント消去の範囲には関係しない。次に、アクセント消去において、「主節のアクセントが WH 焦点によって削除される場合は、疑問詞を含む埋め込み節のアクセントも削除される。」という法則があることを報告する。

## 目次

1. はじめに .....	1
1.1. 対象とする方言 .....	2
2. 先行研究 .....	3
2.1. 領域の拡張 .....	3
2.2. 領域が拡張する範囲 .....	6
2.3. 先行研究の問題点 .....	8
3. 調査 .....	8
3.1. 調査概要 .....	8
3.2. 調査例文 .....	9
3.3. 従属句の構造とアクセント .....	10
3.4. 焦点要素を含む従属節 .....	12
3.5. 本節のまとめ .....	13
4. おわりに .....	13
4.1. 結論 .....	13
4.2. 今後の課題 .....	14
参照文献 .....	16
付録 .....	17
謝辞 .....	21

## 1. はじめに

本研究の目的は、宮崎県都城方言の韻律特徴に焦点を当て、疑問詞疑問表現の韻律パターンを記述することである。特に、これまで調査されてこなかった、間接疑問以外の埋め込み節がある複雑な文のアクセント消去の法則を明らかにする。

本研究は、福田(2023)で扱われている WH 焦点に注目し、主節のアクセントと埋め込み節のアクセントの関係について調査した。WH 焦点を含む疑問文では、疑問詞以降のアクセントが削除される(1a) (福田 2023)。本論文では(1b)のような WH 焦点を含む疑問文が埋め込まれている例を対象に、主節・埋め込み節のアクセントの削除に対して(2)のように一般化する。

(1) a. ダイ[ガ]ビールオノン[ダ]イヨ?

「誰がビール飲んだの?」

[福田 2023: 16]

b. ダイ[ガ]テレビンミンカタ[シ]ビールノンジョッ[ト]?

「誰がテレビを見ながらビール飲んだの?」

(2) 主節のアクセントが削除される場合

疑問詞を含む埋め込み節のアクセントも削除される。

(3) ダレ[ガ]ダゴオクテ[カイ]ヤマノボッ[タ]イオ?

「誰が団子を食べて、そのあと山に登ったの?」

本研究の構成は以下の通りである。2 章では先行研究として、九州諸方言における疑問詞疑問文の領域が拡張する現象と、拡張する範囲を提示する。3 章では都城方言における、埋め込み文を含む疑問詞疑問文のアクセント消去についての調査結果を述べる。3 章では 2 つの調査結果を提示する。まず、筆者は埋め込み節である従属句の従属度によってアクセントが削除される範囲が変わるのでないかという仮説を立て、検証した。だが、従属句の従属度とアクセント消去の範囲には関係が見られなかつたため、この仮説は棄却することになる。次に、筆者は仮説 1 の調査データを再検証し、従属節の従属度合いに関わらず、主節と従属節のアクセント消去に上記(2)の法則が見られることを見出したため、これを報告する。4 章では今回の調査データをもとに本研究のまとめと、今後の展開を示す。

## 1.1. 対象とする方言

本研究の対象地域は、宮崎県都城市である。都城市は、宮崎県の南西端で鹿児島県との県境に位置しており、人口は 158,058 人（2023/9/1 現在）である。方言区画上は、薩隅方言に属する諸県方言のうち北諸地方と呼ばれる（岩本 1983:271）。諸県方言の地域は、今日の行政区では宮崎県に属し、主として同県西南部の北諸県・西諸県の二郡にわたる。

本研究で扱う尾高一型アクセントは、主として宮崎県南部（諸県郡一般・都城市中心）や、鹿児島県志布志町を中心に見られる。また、平山（1951: 218）によると、尾高一型は尻上がり一型で、原則として体言・用言に関わらず文節の最後の音節に音調の山が来る形である。ただ、二重節語の場合は独立性の乏しい音節を語末に持つため音調の山は語頭にくることもあるが（4）、助詞が続く場合は音調の山は助詞に移動する（5）。準三音節及びそれ以上の語で語末の音節が独立性に乏しい場合は、語末より二番目の音節以下が高い（6）。複合語の場合はそれが一語として慣用されるものは、幾音節になってもその語末または後より二番目以下の音節（語末が独立性に乏しいとき）が高く、ほかの部分は低平となる（7）。以上の諸特性は鹿児島音調の B 型（末後の 1 音節のみが高く発音される）と一致するものであるが、更に徹底しているところは、語間に助詞「ガ」「ノ」、特に「ノ」が付いて不完全な複合語など作る時である。この場合も語末の音節が高くなり（8）、助詞がつくとその助詞に音調の山が移動する。ただし、上接語に感動が加わるときは、その形容詞としての本来の意識を復活して普通一語として慣用されているものでも二つの部分に分かれ、音調の山は二か所になるが（9）、助詞がつくと助詞の音調が高くなる。

(4) [イン (犬・印)、 [オン (恩・鬼)、 [オイ (甥・自分) [平山 1951: 219]

(5) イン[ガ (犬・印が)、 ハシ[ガ (橋・箸・端が) [平山 1951: 219]

(6) ア[カイ (赤い)、 ユ[ダン (油断)、 ナガ[ルイ (流れる)  
[平山 1951: 219]

(7) イナカ[マイ (田舎廻り)、 タタッ[ダス (叩き出す) [平山 1951: 220]

(8) アツノ[ヒ (秋の日)、 アニヨン[コ (兄の子) [平山 1951: 221]

(9) グワンタ[レー]ネ[コ (非常に性格の悪い猫) [平山 1951: 221]

## 2. 先行研究

### 2.1. 領域の拡張

本研究で分析するような、疑問詞を含む文でアクセントが消去される現象は、早田(1985)の博多方言を対象とした研究以来知られるようになった。早田(1985)は、疑問詞のある文では疑問詞から助詞(かい・やら・か等)の直前まで、それらの助詞がなければ文末までの間のアクセント、および通常は句境界がすべて消去されるとしている。疑問詞疑問文(wh疑問文)でも選択疑問文(yes-no疑問文)の場合でも、文末疑問助詞(な・ね・や)に関わらず、文末は同じイントネーションが観察される。そのため、疑問詞疑問文と選択疑問文の違いは、疑問詞の有無とアクセントの消去のみとなる。

- (10) ヲ[ラ]一[ゴ]ハンナ↗ (こりやあ御飯か?) [早田 1985: 25]

- (11) ダ[レノゴ]ハンナ↗ (誰の御飯だ?) [早田 1985: 25]

疑問詞疑問文では疑問詞から文末までどんなに長くても、また埋め込み文があっても、疑問詞以降のアクセントは削除される。一方で、疑問詞より左側(文頭側)のアクセントは残る。

- (12) イ[ツオマエコノマエオレノショーカイシタオナトアッテデートシテコーチャノ  
ンダトヤ↗  
(いつお前この前俺の紹介した女と会ってデートして紅茶飲んだのか?) [早田 1985: 26]

- (13) [ゴ]ハンイ[ツタベタヤ↗ (御飯いつ食べたの?) [早田 1985: 26]

疑問詞を含む文より上位の文が疑問文になっていても、間に「かい」「やら」「か」などの助詞がなければ疑問詞から文末までアクセントが消去される。

- (14) オ[レガ]イ[ツキヨートカラカッテキタヤツハシオオマエハクッテシモータトヤ↗  
(おれがいつ京都から買って来たハッ橋をお前は食ってしまったんだ?) [早田 1985: 27]

例文(14)では、疑問詞「いつ」は、「おれがいつ京都から買って来た」という連体修飾文の中にあるが、それより上位の文の「ヤツハシ」や「クッテシモータトヤ」のアクセントが消去される。

セントも消されて平板になっている。間に「かい」「やら」「か」などの助詞が入る場合は以下のように疑問詞から助詞の直前までのアクセントが消去される。

- (15) イ[ツキヨートカラカッテキタヤツハシ]カワ[カラ]ン  
(いつ京都から買って来たハッ橋を分らない) [早田 1985: 27]

- (16) ナ[ンジャローカ]イトオ[モ]一テ (何だろうかと思って) [早田 1985: 27]

早田(1985)の記述をより精緻にしたのが久保(1989)である。久保(1989)は、福岡市方言の疑問詞を含む文のピッチパターンについて、疑問詞疑問文のアクセントを表1の規則として示した。以下に例を挙げて説明する。

表1 疑問詞規則 (久保 1989 の記述をもとに筆者作成)

- |                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| a. 疑問詞があったら、そこから始めて、文末、またはセンテンスを同じくする疑問詞の直前（直前の音韻句境界は含まない）まで、アクセントと音韻句境界をすべて消せ。                                                                                                                      |
| b. 疑問詞があって、さらにその疑問詞を c-command とする「カ」または「モ」または「デッチャ」または「タッチャ」または「カイナ」がある時には、疑問詞から始めて、それら「カ」、「モ」等（複数ある場合は最初のもの）を含む音韻句の句末まで（句末の句境界は含まない）、アクセントと音韻句境界の全てを消せ。結果として 1 つになった音韻句の、後ろから 2 番目の音節に、アクセントを付与せよ。 |

- (17) コ[ンド イ[ツ キヨート イク カイナ] =統語部分の出力  
↓  
音韻句境界挿入規則・動詞句アクセント付与規則  
↓  
|コ[ンド| イ[ツ| キヨート| イク| カイナ|  
↓  
疑問詞規則 (b)  
↓  
|コ[ンド| イツ キヨート イク カイナ|  
↓  
ピッチ指定規則  
↓[コ]ンド イ[ツ キヨート イクカ]イナ (今度いつ京都行くかな?) =音声形

表1について、ab2つの規則は、二者択一的に適用されるためbが適用され得る環境ではbのみが適用されることになる。(17)では「カイナ」は疑問詞「イツ」をc-commandするため、「カイナ」を含む音節句の後ろから2番目の音節にアクセントが付与される。

早田(1985)、久保(1989)が福岡市方言で指摘したアクセント消去は、他の方言でも類似の現象が存在することが報告されている。佐藤(2020)では、熊本県天草市本渡方言を対象に、「ピッチレンジの押さえ込み」と「平らなピッチの拡張」の二つの音調現象を示している。佐藤は熊本県天草市本渡方言について、アクセント体系をA型(ピッチ下降がある音調)とB型(ピッチ下降がない音調)に分類し、それを用いて音調を記述した。

「ピッチレンジの押さえ込み」は、不定語が疑問詞として用いられる疑問詞疑問文で起こり、疑問詞より後ろでピッチレンジが低く押さえ込まれる現象である。疑問詞より後ろにA型が続く場合、ピッチの上昇と下降の幅が顕著に狭まり、B型が続く場合、低く平らなピッチとなる。しかし、不定語がの場合にはピッチレンジの押さえ込みが起こらない。

- (18) a. ダリ]ガ リンゴバ コオ]タカイ (誰がりんごを買ったか?)  
 b. ダリ]ガ ミカンバ クウタカイ (誰がみかんを食べたか?)

[佐藤 2020: 154]

- (19) a. ダリカ] リンゴバ コオ]タカイ (誰かりんごを買ったか?)  
 b. ダリカ ミカンバ クウタカイ (だれかみかんを食べたか?)

[佐藤 2020: 154]

(18)は、A型とB型でピッチレンジの押さえ込みが起こっている(押さえ込みが生じる部分を筆者により下線で示した)。(18a)では、「リンゴバ(りんごを)」と「コオタカイ(買ったか)」には声の下降が聞こえ、(18b)の「ミカンバ(みかんを)」と「クウタカイ(食べたか)」では下降が聞こえないことより、疑問詞疑問文におけるA型とB型の対立が確認される。(19)において不定語がB型であり、(19a)では不定語の後ろに続く各語にピッチの上下が実現し、(19b)では各語に高く平らなピッチが生じる。

「平らなピッチの拡張」は、不定語を含んだ特定の構造を持つ文において、語のアクセントが実現せず、平らなピッチは広がることである。佐藤(2020)では、不定語を含み節末に補文標識「モ」がある埋め込み節(不定節モ)と、不定語を含み句末に助詞「モ」がある名詞句(不定句モ)を取り上げる。不定節モの場合でも、不定句モの場合でも不

定語より後ろではアクセントが実現せず、平らなピッチが観察された。

- (20) a. ダリガ リン]ゴバ コオ]テン ヨカ (誰がりんごを買っても良い)  
b. ダリガ ミカンバ クウテモ ヨカ (誰がみかんを食べても良い)

[佐藤 2020: 156]

- (21) a. ダリガ コオ]タ リン]ゴモ アモ]オナカッタ  
(誰が買ったりんごも甘くなかった)  
b. ダーガ クウタ ミカンモ アモ]オナカッタ  
(誰が買ったみかんも甘くなかった)

[佐藤 2020: 157]

(20)は「ダリガ (誰が)」より後ろにA型とB型を連続させた文章である。(20a)では「リンゴバ (りんごを)」と「コオテン (買っても)」にピッチの下降は実現せず、一続きの平らなピッチが広がる。例文ではA型の語であることを示すために「]」を記載する。(20b)でも「ミカンバ (みかんを)」と「クウテモ (食べても)」に一続きの平らなピッチが広がる。

(21)では不定句モで平らなピッチの拡張が起こることを示している。

本論文で対象とする宮崎県都城市においては、福田(2023)が、WH焦点（疑問詞を含む文）、WH応答焦点（疑問詞への応答を含む文）では、焦点部分以降の高いピッチが削除されることを明らかにしている。(22)は疑問詞「ナニ」に対する答えである「ビール」に焦点がかかり、それ以降の「ノンダンダヨ」には高いピッチが生じていない。

- (22) a. ナニ[オ]ナオヤワノンダノ? (何を直也は飲んだの?)  
b. ビー[ル]ノンダンダヨ (ビール飲んだんだよ)

[福田 2023: 17]

焦点がかかる部分に修飾部について2文節以上になる場合には、焦点要素の主要部以降でアクセントが消去されることを述べている(23)。

- (23) 「何色のマフラーが置いてあるの?」に対して、  
シ[ロイ]マフラーガオイテアル  
「白いマフラーが置いてある」

[福田 2023: 17]

## 2.2. 領域が拡張する範囲

アクセントの消去などにより平坦な音調が観察される領域は、方言によって異なる。早田(1985)、久保(1989)が記述している福岡市方言では、文が長くなてもアクセントは文末まで削除される(24)。

- (24) イ[ツ オマエ ワザワザ オレガ キヨートカラ カッテキタ ヤツハシ クッ  
テシモータトヤ]

(いつお前わざわざおれが苦労して京都から買って来たハッ橋食ってしまったん  
だ)

[久保 1989: 81]

ただし、埋め込み文を含む場合、平坦な音調が観察されるのは間接疑問文疑問詞の  
マーカー「カ」の手前までである(25)。

- (25) ダ[レガ キヨート イク]カ ワ[カラ]ン (誰が京都行くかわかんない)

[久保 1989: 80]

佐藤(2020)が記述する天草市本渡方言でも、疑問詞が主節にあるときと埋め込み節に  
あるときで、平坦なピッチが現れる領域は異なる。平坦なピッチのうち、「ピッチレン  
ジの押さえ込み」現象が起こる範囲は、疑問詞が主節にあるときは主節末であり(26a)、  
埋め込み節内にある時は埋め込み節末の補文標識「カ」まで(26b)である。

- (26) a. ダリ]ガ リン]ゴバ コオ]タカイ (誰がりんごを買ったか?)  
b. ダリ]ガ リン]ゴバ コオ]タカ シラン (誰がりんごを買ったか知らない)

[佐藤 2020: 158]

佐藤はさらに、平坦なピッチのうち、「平らなピッチの拡張」現象については、不定  
語から形態素「モ」までで起こることを述べている。不定語が埋め込み節にあるときは  
その節末の補文標識「モ」まで(27a)、不定語が名詞句にあるときは、その句末の助詞  
「モ」にまで、(27b)平らなピットの拡張が起こるとした。

- (27) a. ダリガ リン]ゴバ コオ]テン ヨカ (誰がりんごを買っても良い)  
b. ダリガ コオ]タ リン]ゴモ アモ]オナカッタ  
(誰が買ったりんごも甘くなかった)

[佐藤 2020: 158]

都城市方言を分析した福田(2023)では、WH 応答焦点について、WH 疑問詞に対する  
答えの部分に焦点がかかり、それ以降の語には高いピッチが生じないとする(22 再  
掲)。さらに、この規則は焦点要素が 2 文節以上の場合も同様であるとしている(23 再  
掲)。

- (22) a. ナニ[オ]ナオヤワノンダノ? (何を直也は飲んだの?)  
b. ビー[ル]ノンダンダヨ (ビール飲んだんだよ) [福田 2023: 17]

- (23) 「何色のマフラーが置いてあるの?」に対して、  
シ[ロイ]マフラーガオイテアル  
「白いマフラーが置いてある」 [福田 2023: 17]

しかし、福田(2023)では福岡市方言や天草市本渡方言で検証されてきた、より長い文におけるアクセント消去の有無については調査していない。特に、埋め込み節の中に疑問詞がある場合、アクセント消去が他方言と同様埋め込み節内に留まるのかは検証する必要がある。

### 2.3. 先行研究の問題点

これまでの先行研究より、疑問詞を含む文章では、疑問詞より後ろのアクセントが削除されることが明らかになった。先述したように、博多方言や福岡市方言では埋め込み文でない場合、どれだけ長くても疑問詞の後ろではアクセントが削除されることが分かっている。また、同じ尾高一型アクセントの小林方言でも、疑問詞が含まれる文章のアクセントは博多方言や福岡市方言と同様に、疑問詞から主節末まで、埋め込み節の場合は埋め込み節末まで平らなピッチが拡張している。先述の(24)は、疑問詞以降の文章がわりに長く、間には連体節が入り込んでいる。福岡市方言では容認されている、連体節の入り込んだような長い文章におけるアクセント消去が、都城方言でも同様に観察できるのかはまだ不明である。

また、先行研究では、疑問詞が埋め込み節内にあるときにアクセントが削除される範囲は埋め込み節末までと述べられているものの、これまでに調査されてきた埋め込み節は間接疑問が中心で、条件節や理由節などの副詞節やテ型接続などが含まれる例文は見当たらない。従属節には従属度の濃淡があり(南 1974)、従属度が高く主節への依存度が高い節ほどアクセントも削除されやすくなることが予想されるが、先行研究では記述がみられない。そのため、都城方言の疑問詞が埋め込み節内にあるときのアクセント削除について調査すること、およびそのアクセント消去と従属節の従属度との関係を記述する必要がある。

## 3. 調査

### 3.1. 調査概要

都城市に住む都城方言話者に聞き取り調査を行った。話者は外往歴が福岡に 5 年の 63 歳の男性にお願いした。共通語の例文を示し、内容が等しくなるように都城方言で

訳してもらい、発した音声をもとにアクセントを書き起こした。

### 3.2. 調査例文

調査で用いた例文は、福田(2023)の調査例文と、南(1974)の従属句の構造の分類（表2参照）をもとに筆者が作成した例文を用いた。以降特に注釈のない例文は筆者の作例である。

表2 従属句の構造（南1974の分類をもとに筆者作成）

A類	動作のようす、しかたなどを表すもので、状態動詞に似た意味。 その句の中だけにおさまると認められる主語を見つけることは困難。	～ナガラ（継続）、～ツツ、～テ、連用形反復、～連用形（形容詞・形容動詞）
B類	条件的な意味、理由・原因、逆接、継起的または並列的な動作・状態、対比 その句の中だけにおさまる主語（～ガの形など）が現われる。	～タラ、～テモ、～ト、～ナラ、～ノニ、～バ、～テ、～ナガラ（逆接）、～ツツ、～テ、～連用形、～ズニ、～ナイデ、～ハ
C類	A類・B類に現わされたもの、A類・B類に現れなかつたもの。	～ガ、～カラ、～ケレド（ケレドモ、ケドモ、ケド）、～シ、～テ、～連用形

従属度はA類が最も高く、B類、C類の順に低くなっている。(28)にそれぞれの分類ごとの例文を示す。A類では、接続助詞の前部分に「名詞+格助詞」の要素が現れる。一方、(28a)で主語とみられる「一人の女」は、「(たばこを)のみながら」の主語に見えるが、「しゃべっていた」の主語とも考えられる。そのため、A類では明らかにその句の中だけにおさまると認められる主語を見つけることは困難である。また、述語的部分（のみながらの「のみ」の部分）に現れる要素にも制限があり、打ち消しの形(28b)や過去形(28c)にすることはできない。これは、A類が従属度の高い従属節であるからである。次に、従属度が中程度のB類はA類よりも現れる要素が多くなる。(28e)では、句の中だけにおさまる主語「風が」が認められ、(28h)では述語的部分に打ち消しの要素が現れる。一方で、モダリティ(28fg)には接続することは不可能である。最後に、C類は従属度が低く、A類・B類に現れた要素はもちろん、A類・B類では認められなかつたものも出現する。述語的部分以外の要素でも、「たぶん」(28j)「まさか」などの推量の形に呼応する修飾語も現れるようになる。

(28) A 類

～ながらの形

- a. 一人の女がたばこをのみながらしゃべっていた [南 1974:118]
- b. \*のまないながら [南 1974:115]
- c. \*のんだながら [南 1974:115]

～つつの形

- d. (船は) 汽笛を鳴らしつつ岸壁をはなれた [南 1974:122]

B 類

原因・理由

- e. 風が吹き出したので、われわれは出航をとりやめた [南 1974:122]
- f. \*のもうので [南 1974:116]
- g. \*のむまいので [南 1974:116]

逆接の意味

- h. 耳はきこえぬながら、ふしは整わぬながら [南 1974:123]

C 類

～がの形

- i. たばこはをのもうが、酒をのもうが [南 1974:117]

～ての形

- j. たぶん A 社は今秋新機種を発表する予定であります [南 1974:124]

### 3.3. 従属句の構造とアクセント

従属句の分類に基づいた調査では、平らなピッチが拡張する領域は異なるものの、(29)のようにほとんどの従属句において埋め込み節末の助詞でピッチの上昇が見られた。これはアクセント消去とは別の、埋め込み節末のイントネーションと考えられる。

- (29) ダイ[ガ]テレビンミンカタ[シ]ビールノンジョッ[ト？]  
「誰がテレビを見ながらビール飲んだの？」

(30)(31)(32)はそれぞれ A 類、B 類、C 類の例文である。(30a)では、平叙文では上昇するはずの「ラジオ[オ]」「ビール[オ]」のアクセントが削除され、(30b)でも同様に、「ビ

ール[オ]のアクセントが削除されている。(31a)では「キンヨウ[ビン]」「ビール[オ]」、(31b)では「キョウ[ハ]」のアクセントが削除されている。また、(32a)では「ダゴ[オ]」「ヤマ」、(32b)では「エイゴ[ノ]」「ベン[キョウ]」「チュウゴクゴ[ノ]」のアクセントが削除されている。

また、(30a)(31a)(32a)では接続助詞の後ろのアクセントも削除されているのに対し、(30b)(31b)(32b)では接続助詞以降のアクセントが復活している。このことから、同じ類にある従属句でも節末の接続助詞ごとにアクセントが削除される範囲が異なることが分かった。また、南(1974)の全ての類で同じようにアクセント消去が起こっているため、従属度の高さとアクセント消去の範囲には関係が見られなかった。

### (30) A類

- a. ダレ[ガ]ラジオオキッカタ[シ]ビールオノンジョッ[ド]?  
「誰がラジオを聞きつつビールを飲んだの？」
- b. ダレ[ガ]ビールオノンカタ[シ]サノコ[ツ]カングエチョッ[ト]カ?  
「誰が酒を飲み飲みこれからのことを考えたの？」

### (31) B類

- a. ダレ[ガ]キンヨウビンナッ[ト]ビールオノン[ジョッ]トヨ?  
「誰が金曜日になると、ビールを飲むの？」
- b. ダレ[ガ]キョウハヤシカッタ[カイ]ビー[ル]カッ[タ]イオ?  
「誰が今日は安いので、いつもよりたくさんビールを買ったの？」

### (32) C類

- a. ダレ[ガ]ダゴオクテ[カイ]ヤマノボッ[タ]イオ?  
「誰が団子を食べて、そのあと山に登ったの？」
- b. ダレ[ガ]エイゴノベンキョウシカタ[シ]チュウゴクゴノベンキョウ[モ]シ[ヨ]ットヨ?  
「誰が英語の勉強をしてるし、中国語の勉強もしてるの？」

以上の結果から、従属節の従属度はアクセント消去の範囲に関係していないことが分かった。

### 3.4. 焦点要素を含む従属節

都城方言では、従属節の従属度はアクセント消去の範囲に関係していないことが分かった。次に、埋め込み節以降のアクセントが削除される場合に注目して、アクセント消去について調査した。以下の法則が明らかになった(33)。

- (33) 主節のアクセントが WH 焦点によって削除される場合は、疑問詞を含む埋め込み節のアクセントも削除される

具体例を示す。(34)は主節末までアクセントが削除された例文である。平叙文の場合は、文節の切れ目ごとにアクセントの上昇が生じるため、「ヤ[マ]ノボッ[タ]イオ」となるはずだが、疑問詞疑問文ではアクセントは消去されている。また、疑問詞を含む従属節のアクセントも疑問詞以降は削除されている。(35)は、埋め込み節末まで削除された例である。

- (34) ダレ[ガ]ダゴオクテ[カイ]ヤマノボッ[タ]イオ？ (文末まで削除されるパターン)  
「誰が団子を食べて、その後山に登ったの？」

- (35) ダレ[ガ]ビールオノンカタ[シ]サノコ[ツ]カンゲエチョッ[ト]カ？ (埋め込み節末まで削除されるパターン)  
「誰が酒を飲み飲みこれからのことを考えたの？」

なお、文末には疑問のイントネーションが生じるが、語末の「イオ」が独立性に乏しいため、イントネーションは「ヤマノボッ[タ]イオ」の位置に移動している。以降も文末にイントネーションの上昇が生じるものがあるが、本研究では分析の対象としない。

次に(33)の例外について述べる。調査した中で、一文だけ、上記の一般化の例が見られた。(36)では、主節のアクセントが消去されているものの、埋め込み節ではアクセントの上昇がみられた。

- (36) ダイ[ガ]アシ[タ]シゴッ[ガ]アッ[チ]ビールノンジョッ[ト]ヨ？  
「誰が明日仕事があるのに、ビールを飲んだの？」

これは、単純な疑問文ではなく、「仕事があるのにビールを飲んだことを責めている」という修辞的な意味に捉えられた可能性がある。そのため、(37)で、修辞的ではない文を用いて検証した。その結果は上記(33)の一般化に沿う結果となり、埋め込み節のアクセントも主節

のアクセントも消去されている。

- (37) ダイ[ガ]ビールガスカン[チ]ビールノン[ダ]ッイオ?  
「誰が好きじゃないのに、ビール飲んだの？」

### 3.5.3 節のまとめ

本節では、調査の結果を報告した。

3.3 節では、従属節の従属度はアクセント消去の範囲に関係していないことを述べた。

3.4 節では主節のアクセントが WH 焦点によって削除される場合は、疑問詞を含む埋め込み節のアクセントも削除されるという法則を発見し、記述した。なお、どのようなときに主節末までアクセントが削除され、どのような時に埋め込み節末まで削除されるかについては、明確な条件が見つからなかった

## 4. おわりに

### 4.1. 結論

本研究の目的は、宮崎県都城方言において疑問詞疑問表現の韻律パターンを記述することであった。今回はこれまで調査をされてこなかった埋め込み節がある場合の韻律を南(1974)の従属句の分類をもとに調査を行い、従属句の構造とアクセントの関係や焦点要素を含む従属句のアクセント消去についての法則を明らかにした。調査結果からは、福田 (2023) が指摘していた主節だけでなく(38)、従属節においても疑問詞の後にアクセントが消去されることがわかった(39)。

- (38) ダレ[ガ]ビールオノン[ジョッ]トヨ?  
「誰がビールを飲んだの?」 [福田 2023: 16]

- (39) ダイ[ガ]テレビンミンカタ[シ]ビールノンジョッ[ト]?  
「誰がテレビを見ながらビール飲んだの?」

加えて、南(1974)の従属句の従属度の高さはアクセント消去の範囲に関係しないことが分かった(40)。

### (40) A 類

- a. ダレ[ガ]ラジオオキッカタ[シ]ビールオノンジョッ[ド]?  
「誰がラジオを聞きつつビールを飲んだの?」

### B 類

- b. ダレ[ガ]キンヨウビンナツ[ト]ビールオノン[ジョツ]トヨ?  
「誰が金曜日になると、ビールを飲むの？」

### C 類

- c. ダレ[ガ]ダゴオクテ[カイ]ヤマノボツ[タ]イオ?  
「誰が団子を食べて、その後山に登ったの？」

次に、焦点要素を含む従属節において、以下の一般化を新たに記述することができた。

#### (41) 主節のアクセントが削除される場合

疑問詞を含む埋め込み節のアクセントも削除される。

ダレ[ガ]ダゴオクテ[カイ]ヤマノボツ[タ]イオ?  
「誰が団子を食べて、その後山に登ったの？」

### 4.2. 今後の課題

今後の課題としては、以下の 2 点が挙げられる。1 点目は、疑問詞疑問文において、主節のアクセントが復活する条件を説明することである。本研究では、主節のアクセントが削除されるときは、必ず従属節のアクセントも削除されることが明らかになつたが、主節のアクセントが復活する場合、その条件は分からぬままになつてゐる。本節では、データをもとにした検証は十分にできていないが、筆者の立てた仮説を 2 つ提示する。1 つ目は、調査例文が調査者の意図した意味と違う解釈をされた可能性である。(42a)は、主節のアクセントが復活した例である。

- (42) a. ダイ[ガ]イガワリ[チ]ビール[ヲ]ノ[ガ]ナ[ラン]トヨ?  
「誰が体調が悪くて、ビールを飲めないの？」

- b. 誰が体調が悪いの？ ビールを飲めないの？

これは、「ダイガイガワリチ」を一つの文であると解釈したせいだと推測する。「誰がビールを飲めないの」かを聞くのではなく、(42b)のように、「誰が体調が悪いの？」の文があり、次に「ビールを飲めないの？」の文が続く、2 文からなる構造だと解釈をしたのだと考える。本来、「体調が悪い」は従属節であるはずだが、調査例文の構造上、

主節よりも先に出てきてしまうため、それに影響されて主節の韻律パターン（アクセントの削除）が出現し、それに続く「ビールを飲めないの？」も新しく出てきた主節だと見なされ、アクセントが復活した可能性がある。そのため、今後この例文が 1 文からなる文であることを周到に説明した上で再調査する必要がある。

2 つ目の仮説は、主節の複雑さや長さがアクセント消去の範囲に影響している可能性である。本研究の調査例文の中で、主節のアクセントが削除されたままの文章を確認すると、全て、「ビールを飲んだの？」「山を登ったの？」など単純なものになっている。一方で、主節のアクセントが復活した調査例文は、「一緒にいくの？(43a)」のように副詞が入ったり、「中国語の勉強もしてるの？(43b)」のように修飾語が入ったりと長い文節の文章になっている。

(43) a. ダレ[ガ]ミ[ケ]イッチュウタ[ラ]イッショ[キ]イットヨ？

「誰が見に行くなら、一緒にいくの？」

b. ダレ[ガ]エイゴノベンキョウシカタ[シ]チュウゴクゴノベンキョウ[モ]ショットヨ？

「誰が英語の勉強をしてるし、中国語の勉強もしてるの？」

そこで、文節の長さと主節のアクセントに注目して、調査を行った。疑問詞を含む従属節は、従属度によるアクセント消去の領域に関係がないことが分かっているため、埋め込み節は「誰がテレビを見ながら」に統一して、主節の長さを 1 文節ずつ増やした。(44a)は、主節が単純な例文である。そのため、これまでの調査と同じように主節の「ビールオ」にはアクセントの復活が見られない。(44b)は主節に「たくさん」という副詞を加え、1 文節だけ長くした。これまで同様に埋め込み節のアクセントは変わらないものの、「ビール[オ]」と「ドッ[サイ (たくさん)]」にアクセントの復活が見られた。(44c)は、主節にさらに「いつもより」を付け加えて複雑な文章にした。同様に埋め込み節のアクセントは疑問詞と接続詞のみに現れ、主節では「イッモヨ[リ (いつもより)]」「ドッ[サイ]」「ビール[オ]」にアクセントが復活した。

(44) a. ダレ[ガ]テレビヲミカタ[シ]ビールオノン[ジョッ]トヨ？

「誰がテレビ見ながら、ビール飲んでるの？」

b. ダレ[ガ]テレビヲミカタ[シ]ビール[オ]ドッ[サイ]ノンジョットヨ？

「誰がテレビ見ながら、たくさんビール飲んでるの？」

c. ダレ[ガ]テレビヲミカタ[シ]イッモヨ[リ]ドッ[サイ]ビール[オ]ノン[ジョッ]トヨ？

「誰がテレビ見ながら、いつもよりたくさんビール飲んでるの？」

このような主節の長さの影響は細かな調査例文を使っての調査はできていない。そのため、今後の調査では本研究の中で主節のアクセントが復活した例文を用いて検証しなおすことが望まれる。

このように、主節のアクセントが復活する条件を解明することで、アクセント消去の領域が変わる理由や、その理論的な位置付けを明らかにできることがあるだろう。これが本研究のもう一つの今後の課題である。韻律句内の文節の長さが韻律の実現に関係することは、標準語において、石原(2014)でも示されている。都城方言で見られた3文節を超えると主節のアクセントが復活する現象も同様に説明できるとすれば、より一般的な理論の中にこの現象を位置付けることができるだろう。

## 参照文献

- 石原慎一郎(2014)「日本語の統語とイントネーション」『日本語学 特集：イントネーション研究の現在』33:16-27. 東京：明治書院.
- 岩本実(1983)「宮崎県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一(編)『九州地方の方言』:269-293. 東京：国書刊行会.
- 久保智之(1989)「福岡市方言のダレ・ナニ等の疑問詞を含む文のピッチパターン」『国語学』156:1-12. 東京：日本語学会.
- 佐藤久美子 (2013)『小林方言とトルコ語のプロソディーー型アクセント言語の共通点一』九州大学人文学叢書3. 福岡：九州大学出版会.
- 佐藤久美子(2020)「天草市本渡方言における不定語の音調と不定語を含む句・節の音調について」『坂口至教授退職記念日本語論集』149-163. 熊本：創想社.
- 早田輝洋(1985)『博多方言のアクセント・形態論』福岡：九州大学出版会.
- 平山輝男(1951)『九州方言音調の研究：共通語・京阪語との比較考察』東京：学会之指針社.
- 福田凪子(2023)「宮崎県都城市方言における句レベルの韻律構造」卒論論文, 九州大学.
- 南不二男(1974)『現代日本語の構造』東京：大修館書店.

## 付録

以下の表では、調査例文と話者の回答の全てを記載する。

分類	調査例文	回答
	誰がビール飲んだの？	ダイ[ガ]ビールノンジョッ[ト？
A	誰がテレビを見ながらビール飲んだの？	ダイ[ガ]テレビンミンカタ[シ]ビールノンジョッ[ト？
A	太郎がテレビを見ながらビールを飲んだ	タロウ[ガ]テレビンミンカタ[シ]ビールヲノンジョッ[ド
A	誰がラジオを聞きつつビールを飲んだの？	ダイ[ガ]ラジオオキッカタ[シ]ビールオノンジョッ[ド？
A	太郎がラジオを聞きつつビールを飲んだ	タロウ[ガ]ラジオオキッカタ[シ]ビールオノンジョッ[ド
A	誰がビールを高く上げて、ビールを飲んでいるの？	ダレ[ガ]ビールオタコア[ゲッ]サエビールノンジョッ[ド？
A	太郎がビールを高く上げて、ビールを飲んでいる	タロウ[ガ]ビールオタコア[ゲ]ッサ[エ]ビールノン[ジョ]イ
A	誰が酒を飲み飲みこれからことを考えたの？	ダレ[ガ]ビールオノンカタ[シ]サノコ[ツ]カンゲエチョッ[ト]カ？
A	太郎が酒を飲み飲みこれからことを考えた	タロウ[ガ]ショツオノンカタ[シ]サノコ[ツ]カン[ゲ]エチョッド
A	誰がこの中で一番多く、ビールを飲んだの？	ダイ[ガ]コンナカ[デ]ビール[オ]ドツ[サ]イノンジョット[ヨ？
A	太郎がこの中で一番多く、ビールを飲んだ	タロウ[ガ]コンナカ[デ]イッ[パン]ビール[オ]ノンジョ[ド
B	誰が戸を閉めて、出ていったの？	ダレ[ガ]トオシ[メッ]サエデテ[イ]ツ[タ]イオ？
B	太郎が戸を閉めて出ていった	タロウ[ガ]トオシ[メッ]サエデテ[イ]ツタ[ド
B	誰が金曜日になると、ビールを飲むの？	ダレ[ガ]キンヨウビンナツ[ト]ビールオノン[ジョッ]トヨ？
B	太郎が金曜日になるとビールを飲む	タロウ[ガ]キンヨウビンナツ[ト]ビールオノンジョッ[ド
B	誰が体調が悪いと知りながら、ビール	ダレ[ガ]オテッキッチョッ[チ]ビールノ

	を飲んだの？	ンジョットヨ？
B	太郎が体調が悪いと知りながら、ビールを飲んだ	タロウ[ハ]オテッキチョッ[チ]ビールノン[ジョッ]トヨ
B	誰が今日は安いので、いつもよりたくさんビールを買ったの？	ダレ[ガ]キヨウハヤシカッタ[カイ]ビール[ル]カッ[タ]イオ？
B	太郎が今日は安いので、いつもよりたくさんビールを買った	タロウ[ハ]キヨウ[ハ]ビール[ガ]ヤシカッタ[カイ]ビール[ル]カッ[タ]イオ
B	誰が明日仕事があるのに、ビールを飲んだの？	ダイ[ガ]アシ[タ]シゴッ[ガ]アッ[チ]ビールノンジョッ[ト]ヨ？
B	太郎が明日仕事があるのに、ビールを飲んだ	タロウ[ガ]アシ[タ]シゴッ[ガ]アッ[チ]ビールノンジョッタ[ド]
B	誰が苦手なのに、ビール飲んだの？	ダレ[ガ]ビールガスカン[チ]ビールノン[ダ]ッイオ？
B	太郎が苦手なのに、ビール飲んだ	タロウガビールガスカン[チ]ビールノン[ダ]イオ
B	誰がここに来れば、飲み会を始められるの？	ダレ[ガ]クレバノンカタハジムッド？
B	太郎がここに来れば、飲み会を始められる	タロウ[ガ]クレ[バ]ウッダ[ド]カイ
B	誰が合図をしたら、ゲームを始めるの？	ダレ[ガ]ゲ[ツ]シテ[カイ]ハジムッド？
B	太郎が合図をしたら、ゲームを始める	タロウ[ガ]ゲ[ツ]シテ[カイ]ハジムッド
B	誰が見に行くなら、一緒についていくの？	ダレ[ガ]ミ[ケ]イッチュウタ[ラ]イッショ[キ]イット[ヨ]？
B	太郎が見に行くなら、一緒についていく	タロウ[ガ]ミ[ケ]イッナ[ラ]オイ[モ]イッ[ド]
B	誰が休みの日でも、早く起きるの？	ダイ[ガ]ヤスンノヒ[デン]ハヨオ[キ]ットヨ？
B	太郎は休みの日でも、毎朝 6 時に起きる	タロウ[ハ]ヤスンノヒ[デン]ハヨオキッ[ド]
B	誰が体調が悪くて、ビールを飲めないの？	ダイ[ガ]イガワリ[チ]ビール[オ]ノ[ガ]ナ[ラン]トヨ？
B	太郎が体調が悪くて、ビールを飲めない	タロウ[ハ]イガワルッサ[エ]ビール[ヲ]ノ[ガ]デ[ケン]トヨ

	誰が本を読み、そのあとしばらく考え込んでたの？	ダレ[ガ]ホン[ヲ]ヨンカタ[シ]ケンゲ [エ]チョットヨ？
B	太郎が本を読み、そのあとしばらく考え込んでいた	タロウ[ガ]ホン[ヲ]ヨンカタ[シ]カンゲ [エ]チョッ[ド]
B	誰が福岡では泊まらずに、直接広島まで行ったの？	ダレ[ガ]フクオ[カン]トマラ[ジ]ヒロシ マイッ[タ]イオ？
B	太郎が福岡では泊まらずに、直接広島まで行った	タロウ[ガ]フクオ[カン]トマラ[ジ]ヒロ シマイッ[タ]イオ
B	誰がご飯を食べないで、ビールばかり飲んでるの？	ダレ[ガ]メシクワ[ジ]ビー[ル]ノン[ジョ ッ]トヨ？
B	太郎がご飯を食べないで、ビールばかり飲んでる	タロウ[ガ]ナンモクワ[ジ]ビー[ル]ノン [ジョッ]トヨ
C	誰が毎日走るが、早くならないの？	ダレ[ガ]メイ[ニッ]ハシッ[ジ]ハ[ヨ]ナ [ラン]トヨ？
C	太郎が毎日走るが、早くならない	タロウ[ガ]メイ[ニッ]ハシッ[ジ]ホガ [ネ]エガネ
C	誰がビールを飲んだから、あの人は怒ってるの？	ダレ[ガ]ビールノンダ[カイ]ハラケチヨ ッ[ト]ヨ？
C	太郎がビールを飲んだから、あの人は怒ってる	タロウ[ガ]ビールオノンダ[カイ]ハラケ チヨット[ヨ]
C	誰が風邪をひいているけれど、ビールを飲んだの？	ダレ[ガ]オテキッチヨッ[チ]ビールノノ ン[ジョッ]トヨ？
C	太郎は風邪をひいているけれど、ビールを飲んだ	タロウ[ガ]オテキッチヨッ[チ]ビール [オ]ノンジョッ[タ]
C	誰が英語の勉強をしてるし、中国語の勉強もしてるの？	ダレ[ガ]エイゴノベンキョウシカタ[シ] チュウゴクゴノベンキョウ[モ]シ[ヨ]ッ トヨ？
C	太郎は英語の勉強をしてるし、中国語の勉強もしてる	タロウ[ハ]エイゴノベンキョウモショ ッ[シ]チュウゴクゴノベンキョウ[モ]シ [ヨ]ットヨ
C	誰が団子を食べて、そのあと山に登ったの？	ダレ[ガ]ダゴオクテ[カイ]ヤマノボッ [タ]イオ？
C	太郎が団子を食べて、そのあと山に登った	タロウ[ガ]ダゴオクテ[カイ]ヤマノボッ [ト]ッチ

	誰がテレビ見ながら、ビール飲んでるの？	ダレ[ガ]テレビヲミカタ[シ]ビールオノン[ジョッ]トヨ？
	誰がテレビ見ながら、たくさんビール飲んでるの？	ダレ[ガ]テレビヲミカタ[シ]ビール[オ]ドッ[サイ]ノンジョットヨ？
	誰がテレビ見ながら、いつもよりたくさんビール飲んでるの？	ダレ[ガ]テレビヲミカタ[シ]イッモヨ[リ]ドッ[サイ]ビールオノン[ジョッ]トヨ？

## 謝辞

本論文の執筆にあたり、ご協力をいただいた多くの方々にこの場を借りて心からの感謝を申し上げます。

まず、都城方言の音調調査を行うにあたり、調査に協力してくださった S さん、K さん、T さんに深く感謝いたします。特に S さんには何度もインタビュー調査に協力していただきました。また、話者を紹介してくださった黒木先生のおかげで素敵な話者の方々と出会うことができました。ありがとうございました。

また、担当教員である下地理則先生には本論文の調査や執筆について、ご指導をいただき心から感謝しております。上山あゆみ先生、太田真理先生、久保智之先生には講義や演習などで基礎知識を教えていただきました。

研究室の先輩方や同期のみんなにも数えきれないほどのアドバイスをいただき、心の支えになりました。最後に、いつも私の支えとなつて 4 年間大学に通わせてくれた家族に深く感謝いたします。